

フ ァ イ ン プ レ ー

－自分のよさを見つけ、伸ばす－

- 1 学 年 第4学年〔前期〕
- 2 主題名 個性伸長〔1－（5）〕
- 3 ねらい
野球を続けようとした「たかし」の気持ちを考えることを通して、自分の特徴に気付き、よさを伸ばそうとする心情を育てる。
- 4 資料名 「ファインプレー」
- 5 展 開

| | 学習活動と主な発問 | 児童の反応 | 指導上の留意点 |
|--------|---|--|--|
| 導 入 | 1 少年野球の映像を見て気付きを発表する。 ○ 少年野球を見て、思ったことを発表しましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒットが出て点が入った。 ・ 一生懸命がんばっている。 ・ 守備の人がうまい。 ・ 応援がすごい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 少年野球の映像を見せ、気付きを自由に発表させる。 ○ 野球のルールについて簡単に説明する。 |
| 展 開 | 2 資料「ファインプレー」を読んで話し合う。 ○ 「たかし」は、「ゆうじ」から「ありがとう」と言われてどんな気持ちになったのでしょうか。 ○ 相手チームの選手から「試合にも出ていないくせに……」と言われたとき、「たかし」は、どんなことを考えたのでしょうか。 ◎ 「ゆうじ」が帰った後、「たかし」は、どんなことを思ったのでしょうか。 3 自分自身の長所について発表し合う。 ○ 自分の長所はどんなところでしょう。それをこれからどうやって伸ばそうと思いますか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合に勝ててよかった。 ・ ぼくの声は、みんなのためになっているんだ。 ・ 悪口を言われてくやしい。 ・ ぼくも試合に出たい。 ・ このまま試合に出ないで応援ばかりではつまらない。 ・ ぼくのよいところは、声を出してみんなを元気にできることだ。 ・ 自分のよいところを生かしてがんばろう。 ・ チームの一員として認められた。 ・ 自分の考えたことをどんどん発表するところ。これからも、たくさん手を挙げたい。 ・ 字をていねいに書くところ。これからも続けたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手チームの言葉に左右される「たかし」の気持ちの弱さにも触れさせ、誰もがもっている心情を引き出させたい。 ○ 自分の長所に気付き、それがチームのためになっていることを知り、自分らしく頑張っ続けてようとする「たかし」の気持ちに共感させる。 ○ 自分のよさを見付けにくい場合は、小グループでの話し合いを入れ全体に広げようとする。 |
| 終 末 | 4 教師の説話を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよいところを見つけて伸ばすことが、自分の成長につながるんだな。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の特徴を生かして成功した人の話をすることにより、自分の長所を伸ばそうとする意欲を高める。 |

6 授業の概要

(1) 主題について

中学年では、自分のこともある程度見つめられるようになってくる。自分の長所・短所を素直に見つめ直し、短所を努力によって望ましい方向に改め、よい所を一層伸ばしていこうとすることは、児童が自分らしい生活や生き方について考えを深めていくことにつながり、自分らしさを発揮し、調和のとれた自己を形成していくために大切なことである。

また、児童が自分の長所を見つめ直すことは、自分の長所をさらに伸ばそうとする意欲を高めるとともに自己肯定感の向上にもつながる。そのことは、自分が様々な壁に直面したときの心の支えにもなると思われる。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 関連付ける場を設定

朝の会、帰りの会で「友だちのよい所」を発表するコーナーや場面を設け、日頃から、児童がお互いによさを見付け合えるようにする。また、家庭や地域との連携（地域の行事、子ども会活動など）の中で、自分の長所を生かす場面を見付け、実践できるよう声をかけるようにする。お互いに「友だちのよい所」を書かせておき、展開後段に生かせるようにしておく。

イ 児童一人一人のよさを把握

教師自身も児童一人一人のよさを把握しておき、児童の発言等を補足したり修正したりできるようにしておく。

ウ 中心場面の取扱いの工夫

「たかし」は、「ゆうじ」の『君の声そのものがファインプレーだ。』という言葉に、次の練習もがんばろうと決意する。「ゆうじ」の言葉がもつ意味をしっかり受けとめ、自信を回復するまでの「たかし」の気持ちの変化に共感させるようにする。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

野球にあまり関心がない児童もいると思われる。少年野球の映像を見せ、その雰囲気を感じ取らせたり、ルールの説明を簡単に行ったりして、資料の内容が理解しやすくなるよう工夫したい。

イ 書く活動

相手チームの選手に言われて「たかし」が愕然とする場面を押さえた上で、中心発問では、ワークシートを活用した書く活動を通して、自信を回復していく「たかし」の気持ちの変容をじっくりと考えさせたい。

ウ 展開後段（価値の一般化）

自分のよさを見付けにくい児童もいるということが予想される。そこで、座席の隣同士等、小グループでの話合いを適宜取り入れ、その後、学級全体の話合いで友達のよいところ、自分の長所等について振り返らせることを通して、自分のよさに気付かせたい。

執筆者より

「たかし」の長所は、適切な声かけでチームを元気付けたり、チームを勝利に導くアドバイスをしたりするところである。それを自身で確かめ、これからもチームのために続けていこうとする「たかし」の姿からそれぞれが自身のよさを見付け、それを伸ばしていこうとする心情を育てたい。

(明德小学校 有田 浩史)